

仙台空港で撮影する監督の今村彩子



津波警報が聞こえない…

4年前の東日本大震災に遭った聴覚障害者を追ったドキュメンタリー映画「架け橋 きこえなかった3・11」が15日、丸亀市綾歌町の綾歌総合文化会館アイレックスで上映される。県内初上映。聴覚に障害がある人は、津波警報のサイレンなど音声で届く情報

を得にくい。災害弱者が直面する情報格差の現実を突き付けるとともに、迫り来る次の災害への備えを訴える。

監督は、生まれつき耳が聞こえない映像作家の今村彩子(35)＝名古屋市＝。震災発生後の11日後に宮城県に入り、2年4カ月にわたって取材。74

映画「架け橋」より



分の作品にまとめ、2013年8月に公開した。国内外の映画祭に出品したほか、各地で上映会が続いている。

被災地の聴覚障害者追う

映画は、宮城の聴覚障害者団体の会長を務める男性を中心に、被災者へのインタビューなどで構成。会長は仕事の傍ら、余震の中で心細く暮らす人たちの支援に日々駆け回るが、そのさなか、脳梗塞で倒れる。

今村によると、東日本大震災では津波警報が聞こえな

いち押し

ったために亡くなった人もいた。「聞こえる人と聞こえない人の交流が日常から

もっとあれば、助かったかもしれない」と今村。「映画を通じて、お互いができること、できないことを考えるきっかけになれば」と願っている。

会場は大ホール。入場料は一般1800円(前売り1500円)、中高生1300円(同1000円)。県

映画「架け橋」県内初上映 15日・丸亀

聴覚障害者協会が開く「第35回手話まつり」の一環。午前10時からの式典の後、上映は同10時50分から。昼休憩を挟んで午後1時30分から今村の講演、同2時40分から手話同好会「菜の花」(坂出市)のアトラクションがある。問い合わせは手話まつり実行委員会、電話0877(75)5185。